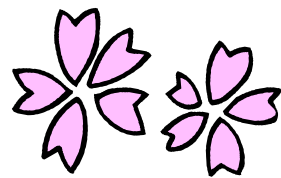


高遠町 地域協議会だより



平成27年6月発行 第33号

地域協議会だより第33号では、平成26年度第9回から平成26年度第11回までの協議結果をお知らせします。

第九回地域協議会 (区長会との合同会議)

平成27年1月9日(金) 高遠町総合支所

■会議事項

◆地名調査について

伊那市教育委員会より地名調査について説明がありました。

伊那市では平成24年より古い地名を後世に伝え残すために地名調査を始めています。

平成25年度は東春近、西箕輪地区で、平成26年度は富県、美篤、手良、西春近地区で行ってきました。

平成27年度は伊那、高遠町、長谷地区の調査をお願いします。

地名は、その土地と結びついた人々の生活の中から生まれ、その土地で生きた人々の心と姿、生きる知恵、郷土愛の象徴となっています。

東日本大震災の後、地名には先祖が「危ない」というメッセージを残してきてくれたということ、また地名の大切さが分かりました。

しかしこの大切な地名が生活の中で少しずつ変わったり、忘れ去られようとしています。絆の大切さが語られる今こそ、先人の心と生活の中から生まれた地名を記録、保存をした

いという調査です。

内容は、地区名、公称地名、通称地名のそれぞれ由来と変遷、また地区として残しておきたい歴史などを調べます。調査は各分館に「地名調査グループ」を編成し行いますが、分館で推薦された方と古い地名や歴史に興味を持つ方で12のグループを編成するように今後の分館長会で相談をしていきます。

調査方法は聞き集めという方法で行い、最後に地区でまとめていきたいと考えています。人選については区長と相談をさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

◆保育園の入園申請状況について

市から保育園の入園申請の状況について報告がありました。

平成27年度の高遠第2、第3保育園の入園申請者の受け付け数は定員の2分の1に満たない状況です。市の基準では2年連続で定員の2分の1を割った場合は休園の検討をする形となっており、地域としてどのように活動していくか協議を進めていただきたいとのことでした。

保育園の定員はどのような規定で出ているのか、定員を減らすことは可能であるかという委員からの質問に対して事務局から、保育園は県の認可を受けており、集団保育ということで、一定の人数が必要となり、基本的には定員は60名以上が望ましいが、過疎地については最低40名が目安とされているということ、定員を減らすということは考えていないという回答がありました。

市として過疎地への配慮を考えているかとの質問には、高遠地域の特殊性や現在の保育園

のあり方を考慮し、地域協議会、区長会、保護者でこれからの園児の確保の取り組みを協議していただきたいと説明がありました。

地域にとつて非常に大きな問題であり、地域の事情を勘案し、数字だけで休園ということが無いようにお願いしたいとの意見が出されました。

区長会からは「ふるさと創生活動支援金」の活用について提案があり、今後、地域協議会を中心に高遠町地区にとつて一番いい方法を協議していくことになりました。



第十回地域協議会

(区長会との合同会議)

平成27年2月3日(火) 高遠さくらホテル

■会議事項

◆田舎暮らしモデル地域について

人口減少社会の中、市では平成25年10月「伊那市移住・定住促進プログラム」を策定し、人口減少に歯止めをかけるための取り組みを進めています。

このプログラムの一つ「田舎暮らしモデル地域」事業は移住・定住の受け皿として高い意欲を有する地域を「田舎暮らしモデル地域」に指定し、受け入れ態勢の整備や生活基盤の確立に向けた支援を行うものです。

指定区域は10年間の終期設定をする中で人口減少が進んでいる地域の中から市長が指定し、26年度は新山地区が指定され、今後、高遠町、長谷、竜西地区を指定する予定です。

事業の実施については、国の交付金事業等を積極的
に活用し、市費の持ち出し抑制や地域負担の抑制を
図りながら、この田舎暮らしモデル地域事業等、さま
ざまなプログラムを実施することにより、伊那市の魅
力として全国発信すること、市の知名度や認知度、
好感度を向上させ、人口減少に歯止めをかけていき
たいとの説明が事務局よりありました。

◆地域公共交通の見直しについて

市では地域公共交通として各路線、バス、タクシー
を運行していますが、伊那市地域公共交通会議また
交通協議会の中で利用者の減少が課題となっており、
昨年度から見直しを検討しています。

本年1月の会議において、高遠循環タクシーの、東
高遠・勝間コースについては利用者の回復は難しいと判
断し、平成27年度から廃止することになりました。

他の路線については、今後見直しをしていく中で、地
域の沿線住民の意見を聞き、合意形成を図りながら
利用していただく方向で考えていると事務局からの説
明がありました。

区長からはどういった点を重点に議論されているか
との質問が出され、事務局から、基本は地域住民の生
活の足の存続がポイントであるが、コスト面も考えた上
で、観光面での利用といったことも含め、住民の方々の
意見を聞きながら検討をしていきたい。

高齢者、学生、交通の足を持たない方を一番に考え
ていきたいとの回答がありました。



◆「高遠スポーツ公園テニスコート」の 廃止について

高遠スポーツ公園テニスコートは、昭和49年に設置
され約40年を経過した体育施設です。

過去5年間の利用者数はゼロで、実質的に体育施
設として利用はされていないため廃止させていただき
たいとの説明がありました。

今後は総合グラウンドの駐車場として使っていたきた
いとのこと。管理については振興公社です。

◆生産森林組合実態調査について

委員からの「生産森林組合の現状と存続の指導につ
いて」の提案から、高遠町地区の17の生産森林組合に
行った、実態調査のアンケート結果がまとまり、事務
局から報告がありました。

経営面積については、50 ha未満が7組合で4割、
100 ha未満は10組合で6割でした。

また組合員数の状況については、50人以上100人未
満が最も多く約5割で、ほとんどの組合が100人未満
でした。

また後継者の不在世帯の増加の状況、事業収入の
不足などの報告がありました。

今後の生産森林組合の必要性について実態を知る
中で存続していくための良い方向を県と連携をしながら
行政としても考えていきたいとのことでした。

委員からは、ほとんどの組合が収入が無い中で、大
変苦しんでおり、行政の指導により法人を作ったので、
国、県の補助金や法人税の減額などについて動いてい
ただきたい。また解散等の進め方について市の支援を
お願いしたいとの意見が出されました。

◆伊那市の地域自治区制度の あり方の答申について

合併10年の特例法の期限が迫り、今後の地域自治
区、地域協議会、総合支所を維持存続して欲しいとい

うことで、伊那市地域自治区制度のあり方について平
成26年12月24日に市長へ答申を行いました。答申は、
人口減少が進む中、地域活力の維持・創造に向け、ま
すます地域住民が支え合い、行政との協働によるま
ちづくりを進めていくことが重要であり、その根幹と
なる地域自治区制度を引き続き維持・強化していく
ため高遠町地域及び長谷地域は地方自治法に基づく
地域自治区へ移行することが適当であるという内容で
まとめられたと会長から報告がされました。

■提案事項

◆新区制度の確立について

諸問題について個々の小集落の声では届かないので、
新区長制度を確立し、区として意見を出した方が大
きな声として行政へ届くのではないかと、旧高遠町合併
時の5区が新設されるのが望ましい、また年度の区切
りを行政と一緒の4月から3月にしたらどうかとの提
案が出されました。

事務局からは、地域の住民が活動しやすい組織が
どうあるべきかを地域協議会で検討していきたいとの
ことでした。

■その他

◆高遠第1・第4保育園の 統合を考える会について

高遠第1・第4保育園の統合問題は検討委員会を
立ち上げ、地域として意見集約をし、市長へ答申をし
ましたが、市からの回答と開きがあるため、考える会
を発足し再検討をしています。

将来に渡る大きな問題であるため、区長会、地域
協議会の委員の方からご意見、アドバイスをいただき
たいとお話が会長よりありました。

第十一回地域協議会

平成27年3月24日(火) 高遠町総合支所

協議事項

◆「日本で最も美しい村」連合への申請について

「日本で最も美しい村連合」は現在54の地域が加盟し、農村、漁村の景観、文化を守りつつ、最も美しい村として活動している連合です。

高遠地域のすばらしい景観や歴史、文化は誇れるものであり、また観光客に接する高遠中学校の生徒のおもてなしが、中部未来大賞の優秀校、中部経済連合会長賞を受賞し、昨年は信州おもてなし大賞を受賞しました。

これらの事から今回、「日本で最も美しい村」連合へ加盟をしていきたいとの説明が、事務局よりありました。

副市長からは、加盟となれば、高遠の魅力が全国へ発信され、地域の活性化になるのではないかと。ぜひ加盟の申請をさせていただきたいとお話がありました。

委員からは、賛成の意見が出され、地域協議会としても協力していくことでした。

◆高遠第1保育園・高遠第4保育園の統合について

「第1・第4保育園の統合を考える会」で協議がされた要望書案について事務局より説明がありました。

協議の中では、移転新築を希望する意見が多くあったが、高遠第4保育園の老朽化を踏まえると、緊急避難的に「当面は現第1保育園へ統合する。」ということと意見集約がされたとの報告でありました。

この案について、地域協議会で承認され市長へ要望をしていくことになりました。

提案事項

●委員からの提案

◆高遠第2保育園・高遠第3保育園の休園について

委員より、高遠第2・第3保育園の休園について、今後議論をしていく上で市の考え方、方針をお聞きしたいとの提案と質問があり、事務局から説明がされました。

休園の対象となる年度は、という質問には、平成27年度、平成28年度の入園希望が定員の半数を切る状況であれば、平成29年度から休園という扱いで検討をさせていただくとの回答でした。

定員の変更についての質問については、変更の予定は無いとの説明がありました。

委員からは、保育園の問題も含め、地域がどう存続をしていくかということ、地元と市と一緒に考えていく必要があるとの意見が出され、事務局からは、それぞれの保育園の特色ある保育活動は大事にしていきたい。地域でいろいろな取り組みをしていただき市へつないでほしい。その上で今後については検討をしていくとのことでした。



委員コラム



13番委員
こいずみ 小泉 ひとし 秀雄

高遠町公民館



高遠城址のコヒガン桜に魅せられ、六年前に横浜から高遠町下山田に移り住みました。定年後は、山を見ながら静かな生活出来ればと思っていたことが実現し、大変満足しているところです。地域の皆様は大変親切で、分からない生活習慣は優しく教えていただき、とても助かっています。

趣味としては、読書・キャンプでしたが、高遠に来てからはキャンプに行く必要がなくなりました。窓からは山が、家から少し出れば川があり、温泉があり自然がいっぱいだからです。そして、新しく趣味として加わったのがマレットゴルフです。ゴルフと規模は異なります

が、ゲーム感覚は一緒です。現在、二つのクラブに所属して楽しんでます。

下山田公民館支館長一年、河南公民館分館長二年のお勤め終了でホットしていたところ、公民館推薦で高遠町地域協議会委員へのお話をいただき、気楽な気持ちでOKしたのですが、後々協議会の内容を調べてみると、高遠町として大変重みのある委員会であることが分かりました。新参者の私のような者が、名前を連ねる委員会では無いと思いますが、白鳥市長から委嘱書を頂いた以上、真剣に取り組みたいと思う所です。

どうぞ、よろしくお願い申し上げます。



14番委員
北原 房子

一般公募

生まれも育ちも、現在の生活もこの山室です。山の中で不便というイメージが強く、引け目を感じていた「住めば都」と昔の人が言っていたが、何時になつたらそうなるのかなと、思いながら年を重ねた。最近は道路が整備され、町も近く感ずるようになった。空気がきれいで、季節を感じながら野や山を眺められ、ここに住めて幸せと思うようになり、これが「住めば都」かと感じています。他県から子供連れの家族の方、数戸この山室に移り住んでくれています。子ども達の声も賑やかに聞こえます。皆さん山室はいいところだと口々に言ってくれます。学校や保育園が遠くなつたが、通学や通園はバス等が配置されていて助かっています。高齢者の方々達も、病院へ行くのにバス代の補助があるので、大変助かります。皆さんがバスを利用出来るうち

は良いが、出来なくなりバスの利用が少なくなると、本数を減らされたり、無くなってしまうとも聞いている。これからどうなるのだろうと思うと、不安ばかりです。少ないなら少ないなりに、小さい車にするとか、また、何らかの手立てをしてもらうようお願いしたい。過疎がさらに過疎にならないようにしてもらいたい。移り住んでいる方々が、良かったと言ってもらえるようお願いしたい。長野県は、長寿県となりました。さらに、長寿県で、元気で長生き出来る県であり、この伊那市高遠町も元気で長生きの地区として、皆が楽しく、仲良く暮らせる高遠町であって欲しい。高齢者にやさしく、安心して暮らせる高遠町、子どもも温かい家庭で生活出来る安心の高遠町であって欲しいと思っています。



15番委員
矢澤 親男

一般公募

私は、的場地区有志の皆さんのご推挙による高遠町地域協議会公募委員であります。長い間、地元『すみよい地域づくり事業』の責任者として、本事業に携わって参りました。現在、この事業は、行政側も住民側もマンネリ化の傾向にあり、特に、合併後は予算の理由等で、なかなか思うように進捗していかないのが実情です。市の基本計画では、『住民が主役の協働のまちづくり』を目指しております。総合支所の幹部の皆さんは、我々の意見や要望に対して、本庁の上司の意向を第一に考えるのではなく、最初に主役である市民の方に耳を傾けて頂きたいと思えます。それには、

同所の幹部に、事業に対する権限を大幅に与え、住民に出来る限り即答できる態勢にすべきであります。また、総合支所の区長は、住民の意見・要望等に対し、事務的に処理することなく、大幅な予算と権限を持ち、これらに対処していただきたいと思えます。以上は、行政に対する私の考えの一端を述べました。

私達、的場有志の会は、信州ふるさと道ふれあい事業(アダプトシステム)に参加し、里親として、県、市と協定し、152高遠バイパスの歩道の花壇、樹木帯をボランティア管理しています。同バイパスは、直線区間のため、猛スピードの車が多く危険ですので、交通安全にかかしやパトカー看板で事故防止を呼びかけています。お願いです、ここを通過する際は、歩道花壇のマリーゴールドやかかしを見ながら、ゆっくり楽しんで運転してください。

お知らせ

地域の身近な課題や問題点などが、どのように議論されているのか地域協議会を傍聴してみませんか。傍聴を希望される方、また地域協議会に対するご意見、ご質問等は協議会委員または高遠町総合支所総務課までご連絡ください。

高遠町地域協議会をはじめ、伊那市の地域協議会に関する情報は、伊那市ホームページ/市政情報/協働のまちづくり/地域協議会をご覧ください。

『<http://www.inacity.jp/>』

編集発行 高遠町地域協議会事務局

(事務局 伊那市高遠町総合支所総務課内)

電話 94-2551 FAX 94-3697

Eメール t-sou@inacity.jp